

2026年5月14日開催  
2026年3月期決算説明会での主な質疑応答

**Q1. 中東情勢影響を除くと、海外事業では今期7億円の増益計画だが、そのうち北米は3億の減益となっている。北米以外のどの地域が利益を伸ばす計画なのか。また、収益基盤として課題が残る地域はあるのか。**

アジア・オセアニアではトップラインを伸ばしつつキャッシュ創出を進める。英国は増設した工場の課題を解消し、利益率は回復を見込む。北米は成長に向けた投資を織り込んでいるため減益だが、買収したマデラ工場が黒字体質に転換しており、ベースとしての収益基盤は改善している。

課題としては、海外全体として日本ほど経営基盤が強くないため、中東情勢やインフレへの対応は価格改定だけでなく、各国事情を踏まえて順次進めていく必要がある。

**Q2. 北米事業の今期計画における達成確度は？**

北米において中東情勢に伴う大きな問題は認識しておらず、現時点では想定通りの売上・利益確保が可能と考えている。

前期は期初に通商政策の影響でサプライチェーンが乱れ、計画通りの販売活動ができなかった。今期は下期に向けて Better for you の製品ラインナップを拡充し販売を強化するほか、Indulgence の分野でも「かっぱえびせん」や現地開発製品を軸とし、従来の販売活動だけでなく、顧客インサイトを起点としたマーケティング活動などで売上拡大を狙う。

**Q3. 北米ではターゲットとする市場が変わるのか。**

Better for you について、従来は比較的コアな部分しか対象としておらず、その領域は市場全体の2-3割程度に留まっている。Better for you の周辺市場はより広がりがあり、今後はその領域まで対象を広げる。

Indulgence についても、現在はアジア圏中心の販売で、ターゲットとする顧客も限定的である。今後はターゲットをスナック棚にも広げるための費用投資を行い、カテゴリ全体の成長を取りに行く。

**Q4. 中東情勢の影響に対するリカバリー策とは何か。また9月の価格改定はそのリカバリー策に含まれるのか。**

本日発表した価格改定は、中東情勢の影響への対応ではない。中東情勢の影響に対するリカバリー策は、価格・規格改定とコスト抑制、効率化で対応する。

**Q5. 中東情勢の影響で当期は利益影響があるが、来期以降は価格転嫁等により吸収できるのか。**

今期中はコストアップを打ち返しきれない部分が残るが、通年では吸収するように努める。値上げによる数量への影響は一定程度織り込んでいるが、それを踏まえても通年では打ち返せると考えている。

**Q6. ポテトチップスのシェア低下が見られるが、今後の価格・規格改定における大きな懸念はないのか。**

値上げによる数量への影響は織り込んでいるが、シェアについて深刻な問題があるとは考えていない。

**Q7. 当期計画において、S&OP の効果とせとうち広島工場の安定稼働による効果はどの程度見ているのか。**

S&OP では SKU 別 PL の可視化を進め、前々期は約11億円、前期は約10億円の改善効果があった。当期は C-BOSS 本稼働への移行期であり、全体最適を進める位置付けのため、計画には大きく織り込んでいない。せとうち広島工場の稼働は既に高水準にあり、その状態を前提に現行計画を策定している。

**Q8. 営業利益増減分析における国内の他原価について、せとうち広島島の減価償却費を除いても過去2年で増加している。その要因は？**

一つの要因ではなく、インフレに伴う各種費用の増加、せとうち広島工場以外の減価償却費や人事制度見直しによる労務費の増加など複数の要因が積み重なっている。これらを踏まえ、営業・製造・本社費用を含めた全体的な固定費削減に取り組む必要があるとの認識で成長戦略を策定している。

労務費については、現場従業員の確保が難しくなってきたり、人事改革を進めているため、一定程度増えることはやむを得ないと考えている。

以上